

ベニザケにみられた異状体色個体*

笠原 昭吾

筆者は1962年5月中旬から同年7月下旬までの約2カ月半、母船式北洋サケ・マス漁業の母船協宝丸（日魯漁業株式会社所属）に乗船し、同船上に水揚げされる数多くのサケ・マスを調べる機会を得た。そして、それらのサケ・マスの中からベニザケ *Oncorhynchus nerka* (WALBAUM) の背面に黄色の縞模様がある異状体色個体を見出した。

同船していた田口喜三郎博士によると、サケ科魚類にはいろいろな奇形がみられるが、このような異状体色個体は実に珍稀なものであるという。

この標本の採捕日時、採捕位置および魚体の大きさは下記のとおりである。

採捕日時:

1962年6月12日

採捕位置:

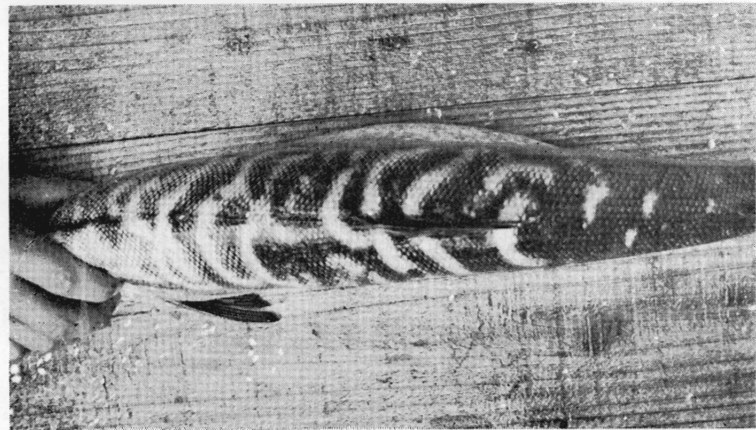
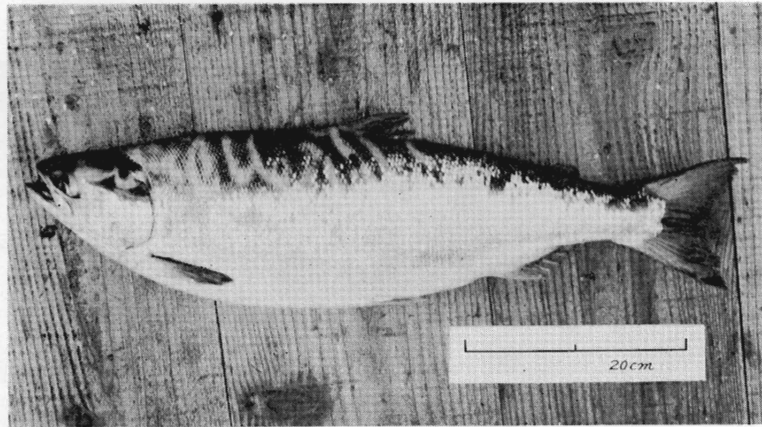
北緯52度23分,
東経169度35分
付近海域

魚体の大きさ:

体長(尾叉長)
594mm, 体重
2,850gr.

この異状体色個体は図にみられるとお

り、斑紋が背中の中の峯から両側方に延び縞模様を呈し、一見したところ、サバの斑紋に近似していた。斑紋の色彩は黒みがかった黄色で、背の部分においては色彩、斑紋ともに鮮明であるが、腹側に近づくにしたがってやや不鮮明となる。斑紋の存在部位は吻端から脂鱗までの間で、しかも黒色素を有する体



黄色斑紋を有する異状体色のベニザケ

* SHOGO KASAHARA: A case of the piebald sockeye salmon, *Oncorhynchus nerka* (WALBAUM), found from the western North Pacific.

側上方部に限られている。体側下方部、脂鱗より後方の尾柄部、鱗および背・胸・腹・臀・脂・尾鱗には斑紋はまったく認められず、これらの部位にあつては一般正常のものと変りなかつた。

異状体色個体に関しては異体類について多くの報告がなされているが、そのほとんどは両側白色、両側有色現象についてのものである。前述の異状体色個体に近似しているものとしては、サケ科では疋田(1958)が北海道天塩川で捕獲されたシロザケ *Oncorhynchus keta* (WALBAUM) の‘まだら’な色彩模様について、大内・黒岩(1963)が日本海で捕獲されたカラフトマス *Oncorhynchus gorbuscha* (WALBAUM) の体色‘まだら’個体および縦縞模様個体についての報告がある。そのほか硬骨魚類の中では筆者の知る範囲では蒲原(1934)がガンゾウピラメ *Pseudorhombus cinnamomeus* (FEMMINCK et SCHLEGEL)の有限側における斜縞模様について、FOLLETT(1954)がアメリカのカリフォルニア産ヌマガレイ *Platichthys stellatus* (PALLAS)の同じく有限側にお

ける‘白黒まだら’(piebald)現象についての記載があるにすぎない。

本報告を終るにのぞみ、いろいろと御教示いただいた日本海区水産研究所西村三郎技官ならびに日魯漁業株式会社今沢重克氏に対し深謝の意を表する。

文 献

- FOLLETT, W. I. (1954). The case of the piebald flounder. *Pacific Discovery*, 7(5): 24-25 (松原, 1955より引用)
- 疋田 豊彦(1958). ‘まだら’な色彩をもつ鮭の一例. 北海道さけ・ます・ふ化場研報, (12): 45-49.
- 蒲原 稔治(1934). 魚類の畸形その他二三の観察. 動雄, 46: 519-525.
- 松原喜代松(1955). 魚類の形態と検索, II. 石崎書店, 東京.
- 大内 明・黒岩 護(1963). カラフトマスに現われた異状体色. 日水研報告, (11): 125-127.